新聞　第3種郵便物認可

悔いなき別れ お手伝い

青森の花輪さん県内初、遺品整理士に

ひとり暮らしの高齢者が増える中、家族に代わって故人の遺品を整理する仕事が注目されている。今年1月、青森市の家電買い取り回収業花輪隆俊さん(44)が県内で初めて「遺品整理士」＝の資格を取得した。

「天国への引っ越しの手伝いです」。花輪さんは自身の仕事についてそう語る。家電、家具、日用雑貨など、買い取った遺品が所狭しと並ぶ倉庫。中にはスロット台や仏像の面など故人の趣味・嗜好がしのばれる品も。「捨てられるより誰かに使ってもらった方が亡くなった人も喜ぶと思うから、単行本1冊だって買い取ります。たかが一円でもいいじゃないですか」

花輪さんが家電を買い取って回収する仕事を始めたのは脱サラした6年ほど前。純粋にエコやリサイクルに興味があった。しかし、依頼先で「実は亡くなった父のもので」などと告白されることも多く、知らず知らずのうちに遺品整理の仕事に関わっていった。

ある日、遺品と一緒に仏壇の回収を頼まれた。大型ゴミとして処分したのでは故人や遺族に対してあまりにしのびないと、仏壇に線香をあげ、専用施設で「おたきあげ」してもらった。

そんな律義な対応が、人づてに広まり、次第に遺品整理の依頼が増えていった。これまでに請け負った依頼は数百件にのぼる。

遺品整理に丁寧に取り組むのにはわけがある。16年ほど前、父親が他界した。思い出が詰まった父親の家。灰皿のたばこの吸い殻さえ1年間捨てることができなかった。このままではいけないと、兄弟総出で荷物をまとめ、ゴミの回収業者に回収を依頼した。

部屋は片付いたが、後になって写真など捨てたことを悔やむものが出てきた。「父を亡くし、形見までなくしたことに気づいたんです」

自分のような後悔をしてほしくないと、遺品回収の依頼者には「悩んだら手に持って考えて。捨てるのはいつでもできます」と声をかける。

資格をとったのは、お客さんに信頼してもらいたかったからだ。遺品整理を専門業者に委託する遺族が増える一方で、回収した遺品を不法投棄する悪質な業者も出てきている。

遺品整理士としての意気込みを尋ねると、「今まで以上に丁寧に遺族の方々のお手伝いがしたいですね」と笑みをたたえた。

（水戸部六美）

倉庫で古いゼンマイ式の時計を手に取る花輪さん＝弘前市松木平

遺品整理士

一般社団法人「遺品整理士認定協会」（北海道千歳市）が認定を始めた民間資格。

遺品整理は、廃棄物処理業者やリサイクル業者、運送業者が担うことが多いが、遺品を不法投棄したり、高額請求したりするトラブルも多発している。資格の認定は、業界の健全化をめざすのが目的だ。

協会が作成した養成講座のテキストやＤＶＤで廃棄物処理法や家電リサイクル法などの法規制、遺族への接し方などを学び、リポート試験に合格する必要がある。5月末現在、全国で1750人が受講し、182人が合格した。

父の死越え、遺族の力に

自宅放火未遂罪 57歳息子を起訴

自宅を燃やそうとしたとして、青森地検は19日、鶴田町の無職加賀谷敏則容疑者(57)を現住建造物等放火未遂の罪で青森地裁に起訴し、発表した。

起訴状によると、加賀谷容疑者は3月24日午後5時半ごろ、両親と同居していた木造一部2階建て住宅で、階段に灯油をまき、ライターで火を付けた新聞紙を投げたが、気づいた母親がすぐに消火したため、床をわずかに焦がしたにとどまったとされる。

110(●)119

●十三湖でシジミ密漁の疑いで2人逮捕　十三湖のシジミを密漁したとして、五所川原署は19日、中泊町大沢内の自動車板金業、藤本義直容疑者(61)と自称五所川原市金木町喜良市の無職、伊藤まり子容疑者(58)を漁業法違反（漁業権の侵害）の疑いで逮捕し、発表した。

署によると、2人は18日午後11時半ごろから19日午前1時ごろまで五所川原市の十三湖で、

県内の学生団体「選挙へGO!!」が、地方議員が政策を語る動画のインターネッ、記者を始めに。動画サイトYouTube（ユーチューブ）をもじり、「政治家

号

鉄道や空路こ乱れ

では市立川内小が20日の休校を決め、つがる市では稲